



魔法でも義務でもなく——読書という歓びの復権

作新学院大学経営学部 准教授 張 海燕

天地に心を立て、生民に命を立て、往聖の絶学を継ぎ、万世の太平を開く

——宋・張載『正蒙』

識字率の低かった古代、読書人は、まるでハリー・ポッターのような“魔法使い”だった。文字という呪文を操り、読み書きのできない人々に知の炎を灯すその姿は、天火を盗んで人類に与えたプロメテウスのようでもあった。学問とは、もともと天下国家に奉仕する壮大な使命であり、読書人は己を削ってでも民のために尽くすことが期待されていた。

だが現代では、識字率はほぼ100%。「文字を読む」こと自体は、もはや魔法でも英雄的行為でもない。そんな今日において、読書が本当に担うべきものは、自らの内に静かに灯をともし喜びだと思ふ。

たとえば——『風と共に去りぬ』の「Tomorrow is another day.」は、すべてを失っても明日が来ると教えてくれた。『高慢と偏見』のエリザベスは、時代に縛られず、知性と誇りをもって自ら選ぶ生き方を体現していた。『ジェーン・エア』の「私の魂はあなたと対等です」という一言は、愛の中でも自由であることの尊さを教えてくれた。『月と六ペンス』の主人公の生き方に共感するというよりも、「自分なら何を選ぶのか」と問われた。『変身』の不条理な変化の中に、人間の孤独と存在の不安が浮かび上がる。『すばらしい新世界』は、幸福という名の管理社会が、静かに自由を奪っていくことを描き、「ほんとうの幸せとは何か」を深く問いかけてきた。若い頃、何の目的もなく、ただ夢中で読んだこれらの本は、いつのまにか心の奥深くに根を張り、人生の道を照らす灯となった。

私たちは無知ゆえに書を開き、書を開くことで無知を自覚する。その循環のなかにこそ、学びの核心がある。

読書は、もはや魔法でも義務でもない。それは誰に強いられるでもなく、自らの内に静かな灯をともし祝祭である。図書館は、その火種がそっと受け渡される公共の場所。今日も変わらず、静かに開かれている。

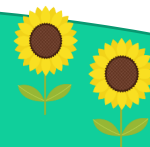
張 海燕 先生にご紹介いただいた

『風と共に去りぬ』908/Ka/22・『高慢と偏見』933/Au・『ジェーン・エア』908/Se/16・
『月と六ペンス』933/Ma/1・『変身』943/Ka/4・『すばらしい新世界』933/Nは

仮図書館で読むことができます。どうぞご覧ください。



仮図書館 OPEN



中央研究棟
2F

中央研究棟 2 階の第 1 会議室に仮図書館を設置しました。
コンパクトながら機能は充実！学びの時間をしっかりサポートします。
前期試験の 1 週間前からは、開館時間を延長します。(9：00～19：00)



大型スクリーンがお出迎え



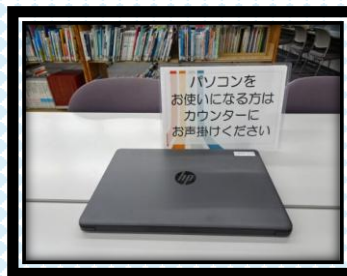
3,500 冊ほどの書籍を設置



仮図書館にない資料は
検索してリクエストしてください



学習スペース



パソコンの貸し出しもしています



短大生も浴衣姿で来館(七夕祭り)

7月

開館カレンダー

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						



9：00～13：30



9：00～16：00



9：00～17：00



9：00～18：00



9：00～19：00



休館日